

# 総合学域群

School of Comprehensive Studies

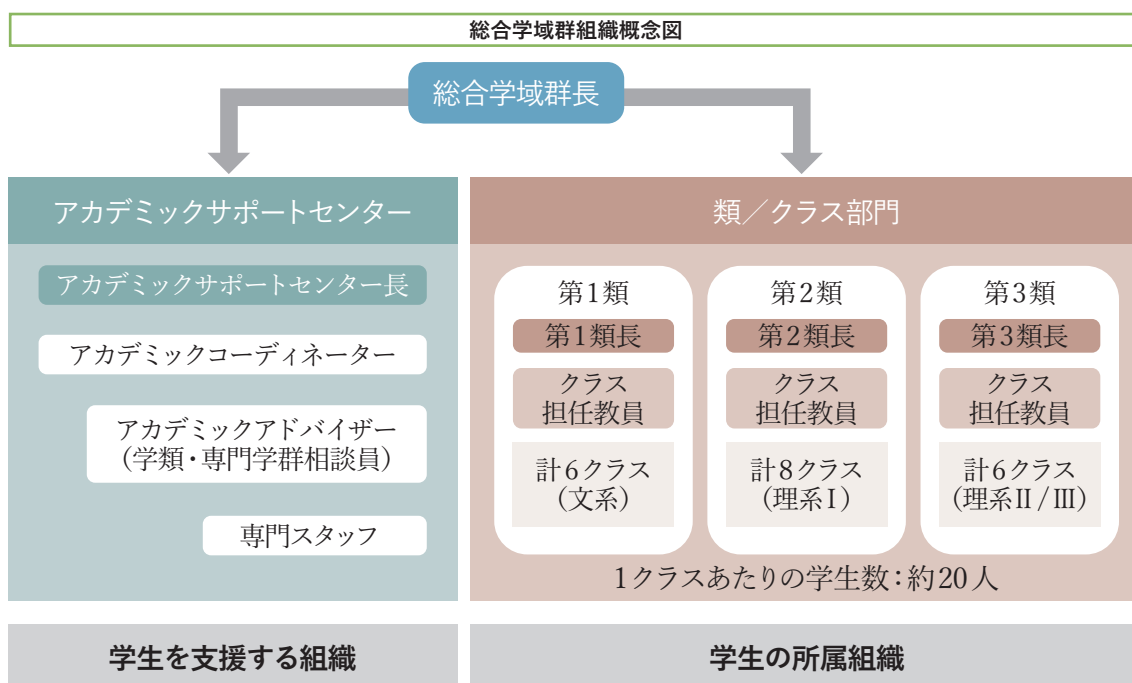
## 総合学域群とは

総合学域群には、総合選抜で入学した学生が所属します。総合選抜は、学類・専門学群の枠を越えて、文系、理系Ⅰ、理系Ⅱ、理系Ⅲという区分だけで選抜する、本学では新しい入試の方式です。

総合学域群には、選抜区分に対応した3つの類（第1類、第2類、第3類）があり、総合選抜により入学した学生は、いずれかの類に所属します。学生は1年次にさまざまな専門分野を学修した上で進みたい専門を見つけ、2年次以降は学類・専門学群に所属します。これを「移行」と呼びます。どの学類・専門学群に移行するかは、本人の志望と、入学後の成績や適性に基づいて決まります。文系、理系といった入試の際の選抜区分に関わらず、総合学域群からは、体育専門学群及び学際サイエンス・デザイン専門学群を除くどの学類・専門学群にも移行する道があります。

## 教育上の目的 / Educational Objectives

総合学域群は、文系又は理系の区分のみを定めて行う入学者の選抜（総合選抜）による入学者の移行までにおける修学支援を通じて、学生が幅広い学問分野から専門分野を選択することに資するとともに、キャリアを主体的に切り拓く力の涵養に資することを教育上の目的としています。



■ 入学後の履修 / Post-enrollment Studies ■

総合学域群の学生は、総合科目、外国語、情報などの共通科目と、学類・専門学群が開設する専門導入科目を中心に履修します。1年次はまだ学類・専門学群に所属していませんが、それらが編成する教育課程の一部を履修します。

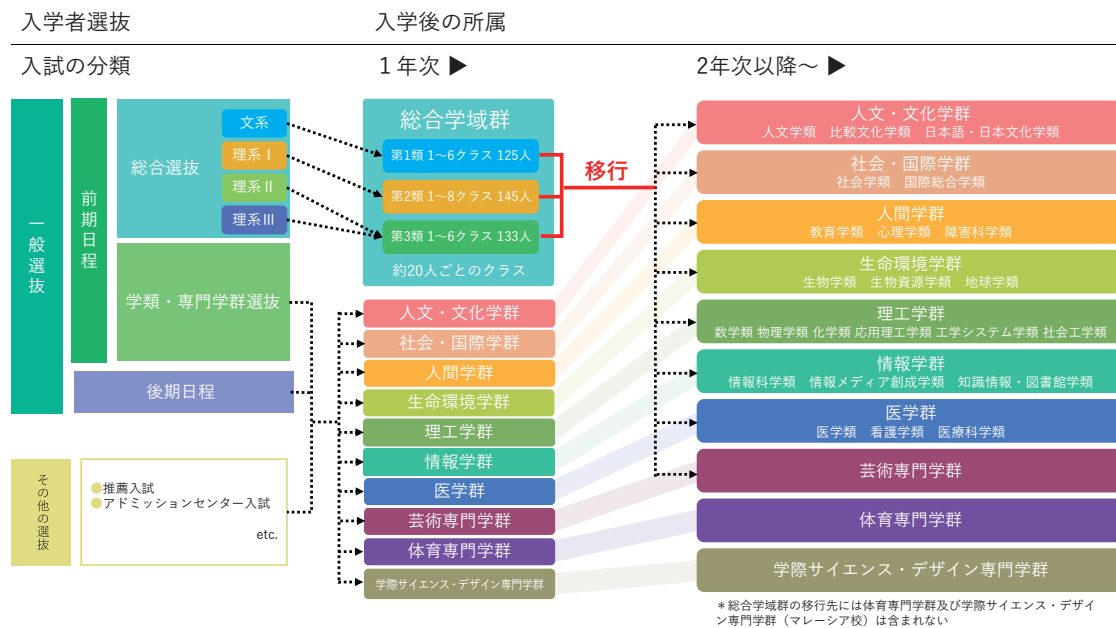
総合学域群の学生が全学共通の必修科目以外で具体的にどの科目を履修するかは、学生本人の関心や、どの学類・専門学群を2年次以降の移行志望先とするかにより大きく異なります。各学問分野の入門的な科目となっている専門導入科目は、移行志望先を決めるのに重要な役割を果たします。

■ 移行手続き / Transition Procedures ■

1年次の3月に、2年次以降に所属する学類・専門学群が決まります。移行先は、学生が設定する志望順位と、学類・専門学群ごとに設定される受入順位の組み合わせによって決定されます。

学生が志望できる学類・専門学群の数には制限がありませんが、志望先によって指定科目の履修が必要となる場合があります。

各学類・専門学群の受入順位は、各学生が履修した科目の成績を総合した成績点と、英語外部試験や適性試験といった成績点以外の要素も加味して決定されます。また、特定の選抜区分で入学した学生を優先して受け入れる学類もあります。



### 入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材	総合選抜においては、大学において学問的な俯瞰をしながら専門分野を定め、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力に裏打ちされた多様な知的な好奇心と旺盛な学習意欲を有する人材を求めます。そのために入学前に、高等学校までの基礎学力をまんべんなく身につけると共に、自分の知的な好奇心を自由に深めていく柔軟な知性と感性を備えた人材を求めます。	
入学者選抜方針	共通の選抜方針：外国語及び受験生が得意とする領域における思考力、判断力、表現力を重視しつつ、高等学校で学ぶ基礎・基本的な学力を全般的に評価します。	
	文系	入学の時点で、文科系志向の学生を選抜します。
	理系Ⅰ	入学の時点で、物理学の素養を必須として理科系志向の学生を選抜します。
	理系Ⅱ	入学の時点で、特定の分野にとらわれない理科系志向の学生を選抜します。
理系Ⅲ	入学の時点で、数学に重点をおいて理科系志向の学生を選抜します。	

### 学修支援体制 / Learning Support Framework

学修支援	<p>総合学域群の学生を支援するアカデミックサポートセンターを設けています。クラス担任だけでなく、アカデミックサポートセンターの教員や専門スタッフが連携し、学修面や生活面に関する面談などを通して、学生一人ひとりの学修をきめ細かくサポートします。アカデミックサポートセンターで常時応じている個別履修相談では、学生の興味関心や志望に合わせた履修計画や科目選択を提案しています。</p> <p>また、学生の移行志望先の選択肢を広げることを目的として、数学、物理、化学、生物などの基礎的科目に関する個別の学修相談を担当するラーニングサポーターを配置しています。ラーニングサポーターは大学院生が担っており、学生の日常的な学びを後押しします。</p>	
学生同士の交流機会	<p>初年次学生向けのガイダンス及びケアを行うファーストイヤーセミナーにおいて、「新入生のための知的な好奇心マップ」を活用したグループワークや複数クラスでの合同授業を実施することにより、学生同士の交流を促進しています。互いの関心や視点に触れることで、自らの興味・関心をさらに深め、新しい学びの方向性を見出す契機になっています。</p> <p>また、夏季ガイダンスでは、移行した先輩学生との座談会を実施し、移行後の自身の姿を具体的に描く機会を設けています。さらに、3月には、新たな学びへ向かう節目として移行式を開催し、学生同士のつながりを深めるとともに、先輩学生との交流を通して移行後の学びを支えるコミュニティを育てています。</p>	
教員との交流機会	<p>キャリアや進路、各学類・専門学群の教育内容等に関する相談に応じる教員として、アカデミックコーディネーター及びアカデミックアドバイザーを配置しています。また、春季・夏季ガイダンスでは、各学類・専門学群の教員が自身の研究室や研究内容を紹介し、学問分野の広がりや研究の魅力を伝えることで、学生の学修意欲を高めています。</p> <p>さらに、広い学問的な視野からの学際的研究を行う基礎力を養う機会として、学生の自由な発案による「学際研究プロジェクト」を設けています。研究分野に関係する教員のサポートを受けながら研究を遂行し、発表することで、学生の問題意識を育てるとともに、移行後の学修及び研究活動等に主体的に取り組むための素地を形成しています。</p>	

**教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality**

クラス連絡会を年2回開催し、学生と教員が率直に意見交換を行うことで、要望等への対応や改善に努めています。

また、ガイダンスなどの各種取組の実施後や移行直前及び移行後の各年次に、アンケート調査を実施することで、継続的に学生の意見を収集しています。収集した意見及び分析結果は、総合学域群運営委員会において検討し、取組の質の保証と持続的な改善を組織的に図っています。